

『地理総合／歴史総合／公共』の「歴史総合」

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

令和7年度の共通テストは、新課程の学習指導要領の下で学習した高校生が受験した最初の試験となった。歴史科目は、「歴史総合」『歴史総合，日本史探究』『歴史総合，世界史探究』の三つの科目が用意された。そのうち、「歴史総合」は第1問，第2問の二つが出題され，それぞれが『歴史総合，日本史探究』及び『歴史総合，世界史探究』との共通問題となっている。今年度は，「歴史総合」の第1問が『歴史総合，日本史探究』の，第2問が『歴史総合，世界史探究』の，それぞれ第1問となった。以下，「歴史総合」の試験概況を示し，前文とする。

受験者数：4,005名，平均点：24.83点（100点換算：49.66点）

なお，評価に当たっては，21ページに記載の8つの観点により，総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

(1) 評価の観点

年度・出題数 設問形式	令和7年度	
	出題数	(出題率)
主に知識・技能を評価するもの	9	(56.3 %)
主に思考・判断を評価するもの	7	(43.8 %)
合 計	16	(100 %)
(うち概念的理解)	5	(31.3 %)

(2) 分野別の出題数・出題率

年度・出題数 分野	令和7年度	
	出題数	(出題率)
政治史	6	(37.5 %)
社会経済史	5	(31.3 %)
文化史	1	(6.3 %)
複数分野に関わる	4	(25.0 %)
合 計	16	(100.0 %)

* 知識・技能を評価する問題と思考・判断を評価する問題の分類は，当外部評価分科会の判断による。

(3) 地域別の出題数・出題率

年度・出題数 地域	令和7年度	
	出題数	(出題率)
東アジア（日本を含む）	7	(43.8 %)
その他アジア	0	(0.0 %)
西アジア・アフリカ	2	(12.5 %)
西欧・北米	4	(25.0 %)
東欧・ロシア	0	(0.0 %)
その他地域	0	(0.0 %)
複数地域に関わる	3	(18.8 %)
合 計	16	(100.0 %)

(4) テーマ別の出題数・出題率

年度・出題数 テーマ	令和7年度	
	出題数	(出題率)
近代化	8	(50.0 %)
大衆化と国際社会の変容	3	(18.8 %)
グローバル化	4	(25.0 %)
その他テーマ	0	(0.0 %)
複数テーマに関わる	1	(6.3 %)
合 計	16	(100.0 %)

第1問 「歴史上における境界」という主題の設定に基づく生徒の探究活動について

問1 18世紀末にイギリス人が自国船での利用を公認されていた港の場所について，適当な組合せを選択する問題。主権国家，冊封体制の概念的理解及び広州についての包括的理解を求める，知識・技能を問う良問。大清帝国を中心とする東アジアの海洋交易において18世紀以降に広州が果たした役割や，ヨーロッパ人が来航する際の航路の蓋然性など，様々な方面から正答にアプローチすることが可能である。

問2 資料とパネルから読み取れることや，その背景について最も適当な文を選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う問題。資料の丁寧な読み解きを基に，資料が日清修好条規についてのものであることを推察する。清仏戦争についての年号でも解答することができるが，日清修好条規が冊封体制から主権国家体制への変更を日本が求めている端緒であり，両体制の違

いが清仏戦争の背景にあるということを踏まえて考察することで、両事象の関係性から正答に至る。

問3 会話文中の空欄に入る国名と文の組合せについて、正しいものを選択する問題。知識・技能を問う問題。19世紀前半におけるイギリスの自由主義及び自由貿易についての、概念的理解が求められる。穀物法の廃止についての知識がなかったとしても、検疫と自由貿易との関係及び自由貿易政策を採択したイギリスの時代性から正答を導くことができる。

問4 文中の空欄に入る文について、最も適当なものを選択する問題。知識・技能を問う問題。

問5 ミシシッピ号の寄港地と各地のコレラの流行時期の地図から考えられる事柄のメモの正誤を述べた文について、最も適当なものを選択する問題。初見資料を読み解く技能が求められている。事実的知識に依拠せずとも、歴史の文脈と地図の丁寧な読み解きによって正解を導くことができる、知識・技能を問う良問。

問6 アメリカ合衆国への出身地別移民数のグラフから読み取れることについて、適当でないものを選択する問題。知識・技能を問う問題。

問7 20世紀後半における西側諸国と他の地域との人やモノの流れに影響を与えた出来事のメモについて、古いものから年代順に正しく配列したものを選択する問題。やや難易度は高いが知識・技能を問う良問である。細かい年号の知識でも解答し得るが、「雪解け→キューバ危機→デタント→新冷戦→多極化」という、大戦後の大きな時代性と画期に対する概念的理解を踏まえ、冷戦期における社会主義国家の変遷や変容を、おおむね10年程度のスパンで判断することによって正答に至る。

問8 「人やモノの移動が境界を越えて促進された場合の影響」という主題を探究するための問いと、問いを考察するための学習活動について、正しい組合せを選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う良問。ベルリンの壁崩壊や殖産興業に対する概念的理解を基に問いについて追究する、探究における思考のプロセスをたどることで正答に至る。

第2問 身の回りの諸事象が日本や世界の歴史とどのようにつながっているかを、装いの歴史を通して探究した学習活動について

問1 会話文中の空欄に入る語句と文の組合せについて、正しいものを選択する問題。知識・技能を問う問題。

問2 会談が行われた時期を推定する方法について述べた文と、その方法で絞り込んだ時期として最も適当なものについて、正しい組合せを選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う良問。設定された方法に基づき、概念化された歴史の知識について歴史的な見方・考え方を働かせることで、論理整合性に基づいて正答に至る。

問3 修好通商条約締結のために日本に來たドイツ（プロイセン）使節団の情報をまとめたノートに関して述べた文について、最も適当なものを選択する問題。知識・技能を問う問題。

問4 綿糸の生産量と自給率のグラフに基づき、綿糸の生産量に関して述べた文とグラフから読み取れることに関して述べた文について、最も適当な組合せを選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う平易な問題。二つの文の関連が低い点に改善の余地がある。中国で生産量が伸びているにもかかわらず自給率が低いことに着目させて、背景となる経済構造について考察させることや、二つの文の間の関連を強めることで、より良い問題になる可能性がある。

問5 1920～1930年代の東アジアの女性の装いに関するパネルから読み取れることやその背景について述べた文として、最も適当なものを選択する問題。知識・技能を問う良問。政治的な状況に関わらず、東アジアに大衆文化が広まっていることから、生徒が持っているであろう「大

衆化」概念をより多角的に捉えることが可能になる。歴史総合という科目の目標を体現した問題といえる。

問6 フランスから影響を受けた1920～1930年代のイタリアファッションの雑誌に掲載された、モード公社の目標に関する資料に対して述べた二つの文の正誤について、正しい組合せを選択する問題。資料の適切な読み解きとファシズムの概念的理解が求められる、知識・技能を問う良問。

問7 20世紀後半のイランにおける女性の装いについて作成したパネルに関して述べた文について、正しいものの組合せを選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う問題。パネルを読み解き、イラン=イスラーム革命について考察することで得た概念的理解を、図として具現化することが求められる。

問8 第二次世界大戦後の女性の社会的地位や女性へのまなざしの変化に関するメモの内容について、古いものから年代順に正しく配列したものを選択する問題。思考力・判断力・表現力等を問う良問。各事象の年号の知識でも解答できるが、ジェンダー平等の達成へ向けた取組や現状を踏まえ、運動の広まりや現在へ向けた展開から推察することで、正答に至る。

3 分量・程度

分量は試験時間に見合った適切なものである。大学入学希望者の学力を測定するものとしては、適切な難易度であった。歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察し、理解しているかを問う問題が様々な工夫された上で出題されていた。また、時代の特徴を概念を用いて大きく捉えるなど、一問一答的な知識ではなく、受験者の概念的理解を評価する意図がくみ取れる出題であった。

今年度出題における分量は適正と感じたが、概念的理解や思考力・判断力・表現力等を問う問題においては、問題のテキスト量が増加しがちな傾向があるので、これからも必要最小限のテキスト量での出題となるよう精査を引き続きお願いしたい。

今年度出題において、特に工夫がみられるもの、及び歴史総合の特徴をよく表しているものについて特に言及したい。**105**は技能を評価する問題として、地図の使い方の工夫がみられた。地図は都市などの場所の知識だけではなく、事象の広がりや変化・推移を読み取ることができる資料である。様々な視点からの積極的な活用を期待したい。また、この問題は、細かい事実に基づく知識そのものを使わなくても、時代性をはじめとする歴史の大きな枠組みの理解と問題の文脈の読み解きから解答に至ることが可能となる、歴史総合らしい問題であった。同様に、**115**も資料の使い方に工夫がみられた問題であった。パネルから読み取った文字情報を整理して概念化した上で、図像化した場合にどのように描かれるかを考察することが求められている。このように、取り込んだ情報を知識に基づいて精査し、概念化することでアウトプット可能な理解に転移させていく思考のプロセスは、歴史総合を学ぶ上で不可欠なものである。これからも出題をお願いしたい。**107**は、歴史総合において学習者が求められる知識の構造が見て取れる出題であった。戦後の歴史の大きな枠組みと時代の性格が転換した画期という、大戦後の時代性に対する概念的理解が求められている。各事象の特徴から、どの時代を表した事象であるかを考察し、配列する問題である。個々の事象の年号の知識でも正答を導くことが可能ではあるが、歴史総合の科目特性を踏まえると、細かい年号の知識を求めているものではなく、上記のような概念的理解と推察する力を問われていると考えるべきである。やや難易度は高いので、思考のプロセスをイメージしやすくなるよう選択肢の表現を工夫することで、難易度の調整も可能であったと思われる。**116**も同様に細かい年号の知識ではなく、「ウーマン=リブによる問い直し→運動が世界的に展開した状況を表す事例としての男女雇

用機会均等法→課題として存続しているために、SDGs に加えられる」と知識に基づき事象の意味付けをしながら展開を考察することで正答に至る問題である。

概念的理解を評価する問題としても良問がみられた。113 は、大衆文化を代表するモダンガールが政治体制を問わず東アジア全域でみられたという情報から、受験者は大衆化概念に対するイメージを更新することが可能になる。114 もファシズムの概念的理解を求めた良問である。第1問Aは中間全体で冊封体制と主権国家体制という概念の理解を問う問題であり、中間の構成が優れていた。受験者は101において冊封体制と主権国家体制の違いについて確認した上で、102において東アジアの外交秩序において、冊封体制がどのように主権国家体制へ変容していったのかのプロセスをたどる構成になっている。清仏戦争の年号が分からなくても、日清修好条規と清仏戦争を、東アジアにおける外交秩序の変容という文脈の中で概念化できれば、推察することができる。

今年度の出題においては、リード文を含めた資料の丁寧な読み取り、読み取った情報と知識を照らし合わせた上での考察、時代性に対する概念的理解を含めた歴史の大きな枠組みの理解など、知識・技能及び思考力・判断力・表現力等を評価する問題がバランス良く配置されていた。今後ともこのような力を評価する良問を是非ともお願いしたい。

4 表 現・形 式

多様な資料に基づく問題が数多く出題されていた。文字資料・地図・統計資料・図像資料・パネルなど、ほとんどの資料が受験者にとって初見のものであったことは、注目に値する。受験者は、リード文や資料を丁寧に読み解き、読み取った情報と知識を照らし合わせて考察することが求められている。また、授業中のやりとりや探究的な活動など、多様な形式での出題がみられた。

第1問においては、Aでテーマに対する資料と生徒が作成したパネルから始まり、Bで授業中の先生と生徒の会話でテーマに対する理解を深め、Cで生徒が調べた結果をグラフにまとめている。構成自体が、授業を通した生徒の学びの姿を描くものとなっている。第2問においては、Aで授業の場面が描かれたのち、Bでテーマに対する発表の準備をしている。このような形式は、探究的な学びを経た生徒にとっては、学びの延長線上に共通テストがあり、イメージを持ちやすい。この形式は今後ともお願いしたい。

歴史総合という科目が、歴史の学び方を学ぶ科目としての側面を持っていることを考えると、こうした出題形式は、科目の特質をよく踏まえたものになっているものと言える。このように良質な問題の作題は、困難を伴うものであることが想像されるが、今後とも継続していただきたい。

5 ま と め（総括的な評価）

本試験「歴史総合」においては、資料やリード文を読み取った上で知識を用いて考察する出題や、時代性をはじめ、概念化された知識を基に考察する出題がみられ、歴史総合という科目の特性に合わせた問題を出題しようという明確な意図がみられた。リード文をはじめとする資料の読み解きや活用に特に力点が置かれていた。大問ごとに授業を想定した大きなテーマが設定されていたり、中間ごとに生徒の学びの場面が設定されたりしており、中間同士や小問同士が相互に関連しながら出題された良問であった。

全体を通して、歴史総合をどう学ぶかについて考えるための、明確なメッセージが見てとれた。コンテンツ面では、歴史総合で学ぶべきコンテンツは、日本史や世界史に区分できるものではないこと、詳細な知識の暗記よりも時代性や時代を特質付ける概念の理解を求めていると受け取った。これは、歴史総合の科目の特性をよく表したものであると考える。今年度においては、冊封体制と主権国家体制、自由貿易、自由主義、移民、冷戦構造や社会主義の変化、近代化、大衆化、ファシ

ズム、ジェンダーなどの概念が取り上げられていた。いかに学習者の概念的理解を促すか、我々高校教員に課せられた課題といえよう。コンピテンシー面では、資料の丁寧な読み取りと、読み取った情報や知識を基に考察することが必要であることが分かる。この方向性は、旧課程においても既にみられた傾向であったが、今年度の「歴史総合」においては、より大きな力点が置かれていた。細かい事實的知識を要せずに、大きな時代性の知識と丁寧な読み解きの技能が求められる問題も出題されており、歴史総合らしい問題であるといえる。また、主題を追究するための問いを設定し、設定した問いを考察するための学習活動を組み合わせる問題も出題された。これは、問いを探究する際に、どのような調査をすれば問いを検証できるのかを思考する問題であり、生徒自身が探究的な思考を持って、歴史事象を活用することが求められている。歴史総合においては、学習指導要領内容D(4)「現代的な諸課題の形成と展望」において、生徒が設定した主題に対し探究的な学習が行われる設計になっている。高校の現場においては、詳細にコンテンツを教え込むことが中心の授業となった結果、進度が間に合わずにD(4)を実施できなかったという事例も聞こえてくる。いかに、生徒自身が探究的に学ぶことが重要であるのかを、改めて思い起こさせてくれる、良問であった。

歴史総合における「近代化」「国際秩序の変化・大衆化」「グローバル化」は時代の転換点を意味するものであり、時代区分ではない。そのため、現代社会に生じている課題が、それぞれの転換点において、どのように生じて変容し、現在に至るかをたどっていくことにより、それぞれの転換点を概念化して理解することが可能になる。今後、現代の課題を大問のテーマとして取り上げ、「近代化における問題の発生→大衆化における問題の変容→グローバル化における問題の展開→現在」というたどり方を追体験する出題を検討してほしい。このような思考のプロセスにより、受験者が「近代化」「大衆化」「グローバル化」という、転換点そのものを概念的に理解することを促すような大問構成も可能なのではないか。とはいえ、今年度の「歴史総合」の問題は総合的に判断すると、歴史総合の科目の特性を捉えた良い問題であったといえる。

「歴史総合」初年度において、歴史総合の理念を具現化した問題を作成するにおいては、大きな苦勞を伴うものであったと想像される。御尽力いただいた委員の皆様に感謝申し上げるとともに、これからの歴史教育のため「万歳二唱」をもって評価・分析報告を終えさせていただきたい。